

# 天目

第9号

発行者 天目山栖雲寺

発行日 平成24年1月1日



## 『一雨潤千山』

いちうせんざんをうるおす

おもいきって勇気を出してみる。不安は残るものだが、自身の決断は思わぬ方向へ好転することもある。しかし予想もしない事態を招くこともやはりありうる。しかし、どちらに事が運んでも、自身で判断したということに大きな意味がある。それは、まわりの価値や意味に流されずに自分の心で決めたことはどちらに転んでも、それは自分の力となるからである。喜びは力となり、失敗もやがては自身の肥やしとなり、やがては力となるであろう。

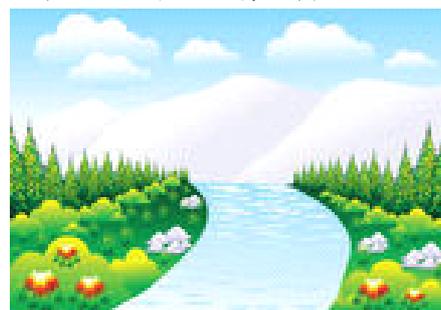
自然界はあるがままの姿そのものである。逆らうことなく、期待することすらない。夜半からの雨が翌朝、すべての塵芥を洗い流してくれるかのように清々しい。天目山栖雲寺周辺の雄大な景色を観ていて、ふと思った。ここは別天地、自然は黙って、私たちに心のとらわれからの解放を示しているようだ。

環境が人をつくるという、御住職の青柳和尚はさわやかで元気一杯である。青柳和尚とはじめてお会いしたのは彼がまだ大学生の頃。はきはきとした青年がもう立派な和尚として自分の手腕を発揮しておられる。天に聳え立つ栖雲寺のこれからが大いに楽しみである。青柳住職はこれから建長寺派の役員（財務部長）となられ大いに活躍されます。山梨との行き来はたいへんであろうが、持ち前の元気さと明るさで檀信徒の皆さんと一丸になって寺が栄え、善い環境に善い人々が集うこととなるでしょう。これからの活躍が大いに期待されます。

私もこれから趣味のオートバイを駆って天目山栖雲寺をめざしてツーリング参りに行きたいと、いまから楽しみにしている。

建長寺派前教学部長 横須賀満願寺住職 永井宗直

※今号の原稿は、長年にわたり建長寺の宗務行政に御尽力され、平成二十三年十二月に御退任なさった建長寺派前教学部長であります永井宗直師に執筆をお願いいたしました。



知っていますか？

## 仏様のこと ④お地藏様

たよりの8号で弥勒菩薩について書きました。お釈迦様入滅から、その弥勒菩薩出現までの五十六億七千万年の長い間、私達を苦しみから救ってくださるのが地藏菩薩です。栖雲寺の本山である鎌倉建長寺の本尊もお地藏様。

平安時代や鎌倉時代の人々は、浄土に行けなかった者は地獄に堕ちる、悪さをするとか閻魔様に地獄の裁きを受けるとして地獄を心底恐れていました。お地藏様を信仰するものは浄土へと導いてくれるのです。また地藏は「地」の「蔵」と書きますように、衣食住、文化、教育、家族など母なる大地の恵みを全ていただき安らかな生活を見守ってくれる仏様なのです。

この地藏菩薩と対をなすのがたより第5号に書いた虚空蔵菩薩（虚空とは大宇宙のこと）です。



建長寺の本尊お地藏様（仏殿）

## 観音募金

皆様方からご喜捨いただきましたお布施・お賽銭・拝観料の中から、**建長寺観音募金に十万円**を寄付致しました。このお金は観音様へと姿を変え、東日本大震災はもちろんのこと、タイの大洪水被害、国内でも台風十二号被害などの義援金として多くの人々を救う助けになっております。自分や家族だけが幸せだと言うのは本当の幸せではありません、世界のみんなが幸せになれるように。



## 牡丹の株を増やす

一昨年に百株、昨年も五十株の牡丹を信者様から頂戴しました。

庫裏、本堂の裏を中心に境内のあちらこちらに植えましたので、現在百五十株の牡丹があります。

昨年は晋山式で行われた**五月下旬**にきれいな花を咲かせてくれました。今年もどうぞご期待ください。



## 今年の主な行事予定

- 四月二十二日（日） 摩利支天大祭、御祈祷
- 七月二十七日（金） 開山毎歳忌
- 十月七日（日） 山門大施餓鬼
- 十一月十日、十一日 宝物風入れ展